

おおさかじょう いしがき さんち
大阪城の石垣の産地

甲山周辺には、切り出された大きな花崗岩の岩のかたまりが点在しています。この巨岩は大阪城が大坂夏の陣（1615年）で焼失した後に、徳川幕府によって再建された際の石垣用の石材です。甲山のほかに、六甲山、生駒山、瀬戸内の島々などから運ばれて造成されました。



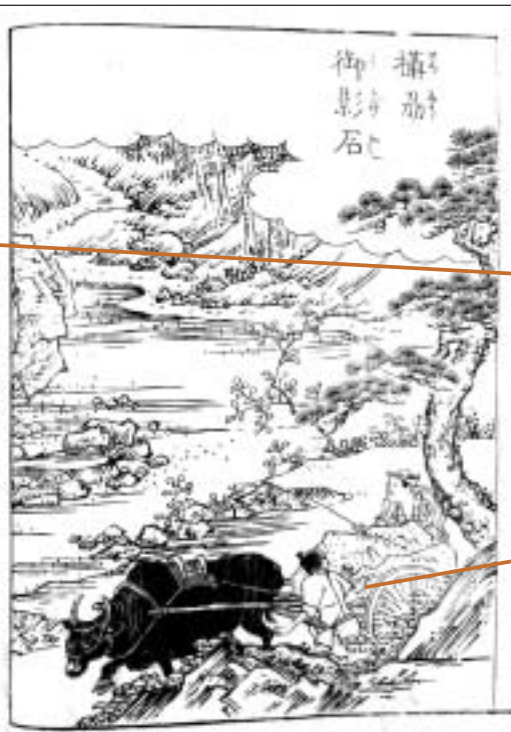
どのように切り出したのでしょうか？

1 ノミで矢穴をつくる

2 クサビ状の鉄を矢穴に打ち込む。



矢穴の跡が残る岩
クサビのことを「矢」といい、差し込む穴を「矢穴」と呼びました。



3 お割った石をおしはがす

4 牛車にのせて運ぶ



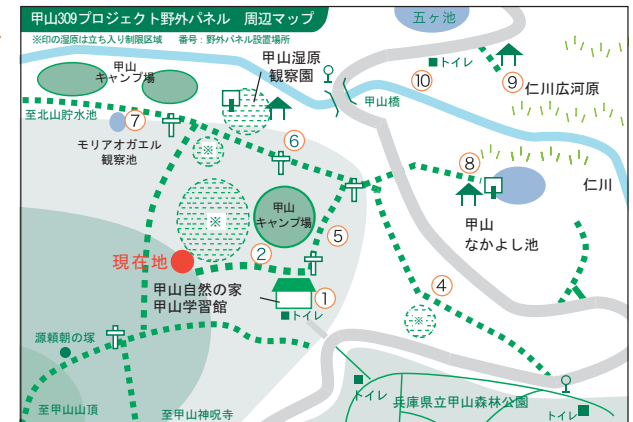
花崗岩
マグマが地下でゆっくりと冷え固まってできた火成岩。石英、長石、黒雲母などの鉱物でできています。御影石とも呼ばれ、石材として広く利用されています。

安山岩

マグマが地表近くで急に冷えて固まってできた火成岩。1500万～1000万年前頃に噴出したものです。



チャート
黒、白、赤、緑など様々な色があります。大陸から遠く離れた海底で、海中のプランクトンなどが沈み、長い年月をかけてたい積してできた岩石と考えられています。



寄贈：西宮自然保護協会

NPO法人子ども環境活動支援協会

この野外解説板のデザインは平成21年度ライフ&ネピア環境助成事業（株式会社ライフコーポレーション・王子ネピア株式会社）により作成しました。